


安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	ふきそうじ用洗剤 除菌剤配合
会社名	株式会社MonotaRO
所在地	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名	商品お問合せ窓口
電話番号	0120-443-509
FAX番号	0120-289-888
緊急連絡先	所在地と同じ
推奨用途	サッシ・ガラス・冷蔵庫の外側・照明器具のカサ・鏡・フローリング床・ビニール床・壁・ドア・たたみ・カーペット・化粧板・戸棚・家具・電気製品・電話等の洗浄 推奨用途以外でのご使用はご遠慮ください。
使用上の制限 整理番号	M260302

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

健康有害性	急性毒性(経口) 分類できない 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 区分に該当しない(分類対象外) 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 分類できない 皮膚腐食性/刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分1A 生殖毒性・授乳影響 分類できない 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分に該当しない 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 呼吸器)
環境有害性	誤えん有害性 分類できない 水生環境有害性 短期(急性) 区分2 水生環境有害性 長期(慢性) 区分3 オゾン層への有害性 分類できない
GHSラベル要素	
絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H350 発がんのおそれ H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ H373 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、呼吸器の障害のおそれ H401 水生生物に毒性 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	

安全対策	<p>使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)</p> <p>全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)</p> <p>粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)</p> <p>環境への放出を避けること。(P273)</p> <p>保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)</p>
応急措置	<p>ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)</p>
保管 廃棄	<p>施錠して保管すること。(P405)</p> <p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
アルキルアミノキシド	非公開	C16H35NO	非公開	既存	非公開
アルキルグルコシド	非公開	CxHyOz	非公開	既存	非公開
1-アミノ-2-プロパノール	<1.0	C3H9NO	(2)-323	既存	78-96-6
エタノール	2.5	CH3CH2OH	(2)-202	既存	64-17-5
ジエチレングリコールモノ ルマルブチルエーテル	1.0-5.0	C8H18O3	(2)-422,(7)- 97	既存	112-34-5
2-ブトキシエタノール	<0.1	C6H14O2	(2)-407,(2)- 2424,(7)-97	既存	111-76-2
2-アミノエタノール	<0.1	C2H7NO	(2)-301	既存	141-43-5
塩化アルキルジメチルベンジ ルアンモニウム	<0.1	不明	非公開	既存	非公開
香料	<0.1	不明	非公開	-	非公開

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

使ってはならない消火剤

火災時の特有の危険有害性

特有の消火方法

この製品自体は、燃焼しない。

情報なし

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤(土・砂など)で吸着させ取り除いた後、残りを大量の水で洗い流す。

盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

必要があれば希塩酸、希硫酸などで中和する。

中和の際は、発熱、発煙などに注意する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱注意事項

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

保管

接触回避

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
エタノール	未設定	未設定	TLV-STEL 1,000ppm(2009)

ジエチレングリコールモノ ルマルブチルエーテル	未設定	未設定	設定あり
2-ブトキシエタノール	25ppm	【最大許容濃度】 20ppm(97mg/m3)(皮)	設定あり
2-アミノエタノール	未設定	3ppm(7.5mg/m3)	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
エタノール	未設定	未設定
ジエチレングリコールモノ ルマルブチルエーテル	60mg/m3	-
2-ブトキシエタノール	未設定	未設定
2-アミノエタノール	20mg/m3	-

許容濃度 (ACGIH) 参照先: <https://www.acgih.org/>

設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。

手の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。

眼、顔面の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。

皮膚及び身体の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

形状

液体

色

無色透明

臭い

わずかに特有の芳香臭

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限及び爆発上限 下限
/可燃限界

データなし

上限

データなし

引火点

引火せず

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

10.8(代表値)

動粘性率

データなし

溶解度

水と任意の割合で混合する

n-オクタノール/水分配係数

該当しない

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

1.00(代表値)

相対ガス密度

データなし

粒子特性		該当しない
10. 安定性及び反応性		
反応性		通常の条件では安定。
化学的安定性		通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性		強酸化剤との接触を避けること。
避けるべき条件		高温(40℃以上)になる場所、直射日光の当たる場所、凍結のおそれのある場所で保管しないこと。
混触危険物質		ハロゲン類、強酸類、酸化性物質と接触しないよう注意すること。
危険有害な分解生成物		現在のところ有用な情報なし。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	急性毒性推定値が332463.3460874mg/kgのため区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	経皮	急性毒性推定値が97215.032959mg/kgのため区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入	(気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) 急性毒性推定値が50000ppm超のため区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値が105.8823529mg/lのため区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		10×(区分1+A+1B+1C)+区分2の成分合計が3.01%のため、区分3とした。 JIS Z 7252に採用されていないため区分3から区分に該当しないに変更。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
呼吸器感受性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚感受性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性		区分1Aの成分が2.5%のため、区分1Aとした。

生殖毒性

(生殖毒性)

区分1Aの成分が2.5%のため、区分1Aとした。

(生殖毒性・授乳影響)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

区分1(肝臓)の成分が2.2%のため、区分2(肝臓)とした。

区分1(呼吸器)の成分が2.2%のため、区分2(呼吸器)とした。

区分1(肝臓)の成分が2.5%のため、区分2(肝臓)とした。

誤えん有害性

※区分2(中枢神経系)は2.5%含まれる。

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が52.5%のため、区分2とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が66%のため、区分3とした。

生態毒性

データなし

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

データなし

土壤中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

非該当

Marine Pollutant

Not applicable

Liquid Substance

Not applicable

Transported in Bulk

According to MARPOL

73/78, Annex II, the

IBC Code

国内規制

航空規制情報

非該当

陸上規制

消防法の規定に従う。

海上規制情報

非該当

海洋汚染物質

非該当

MARPOL 73/78 附属 非該当
書II 及びIBC コードに
よるばら積み輸送され
る液体物質

航空規制情報 非該当
緊急時応急措置指針番号 なし

15. 適用法令

労働安全衛生法

作業環境評価基準(法第65条の2第1項)
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1
項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表
第2)

エタノール

ジエチレングリコールモノブチルエーテル

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第
1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条
の2別表第2)

エタノール(安衛則別表第2の番号:205)(5%未満)
(営業秘密)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(安衛則別
表第2の番号:729)(5%未満)(営業秘密)

特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2
項、施行令第22条第1項)

労働安全衛生法(表示・通知
対象物質、がん原性物質)
(令和8年施行分)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1
項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表
第2)

労働安全衛生法(令和8年
施行分)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1
項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表
第2)

エタノール

労働安全衛生法(表示・通知
対象物質、がん原性物質)
(令和8年施行分)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1
項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表
第2)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル

労働安全衛生法(令和8年
施行分)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第
1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条
の2別表第2)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第
1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条
の2別表第2)

エタノール(安衛則別表第2の番号:205)(5%未満)
(営業秘密)

労働安全衛生法(表示・通知
対象物質、がん原性物質)
(令和8年施行分)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第
1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条
の2別表第2)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(安衛則別
表第2の番号:729)(5%未満)(営業秘密)

労働安全衛生法(表示・通知
対象物質、がん原性物質)
(令和9年施行分)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1
項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表
第2)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(安衛則別表第2の番号:729)(5%未満)(営業秘密)

毒物及び劇物取締法
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

非該当

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(管理番号:627)(2.2%)

化審法
消防法
海洋汚染防止法

優先評価化学物質(法第2条第5項)

非危険物

油性混合物(施行規則第2条の2)

16. その他の情報
参考文献

原料メーカーSDS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」データベース(CHRIP)

厚生労働省 職場のあんぜんサイト「GHS対応モデルSDS」

その他

記載内容の取扱い

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、記載事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。また、記載内容は新しい知見などにより予告なく改訂することがあります。